

◆お金に関するトラブルに巻き込まれないための知恵

1 生活設計をしっかり行う

しっかり生活設計を行っていれば、危うい話を遠ざけやすくなります。

2 お金に関して、うまい話はない！と肝に銘じる

金融商品は、「安全性・収益性・流動性」の3つの基準で評価できます。例えば、「預金」は安全で、流動性が高い（現金に換えやすい）金融商品ですが、収益性（利益が出やすい）は低いです。一般的に、安全が高ければ「収益性」は低い。また、「流動性」が高ければ「収益性」は低い、という関係があります。

「安全性・収益性・流動性」の3つの基準すべてに優れている金融商品はありませぬ。もしそのような金融商品を見つけたと思ったら、何か見落とししていないか、よく確認しましょう。

3 金融商品は「信頼できる業者からしか購入しない」と決めておく

4 「自分がきちんと理解できる金融商品しか買わない」と決めておく

一般に金融商品は、複雑なものになるほど、手数料が高かったり、見えないコストが含まれていることが多いものです。きちんと理解できる簡素な商品を買うことは、お金のコストを節約できる効果もあります。

5 金融商品を選ぶ場合、選択のための情報がどのように提供されているか注意する。

「売り手」にとっての「買ってほしい商品」が、「買い手」にとっての良い商品であるとは限りませぬ。複数の「売り手」から情報を集め、比較しながら検討しましょう。

6 「自分だけは大丈夫」と思わない。

「自分だけは大丈夫」と思っていた方も特殊詐欺などの被害にあっています。騙す側はプロで知恵を絞ります。人間の心理に巧妙につけこむ手口が多く、社会情勢（災害、給付金等）を踏まえた手法もあります。

オレオレ詐欺の手口で「なぜ自分の子どもの声がわからないの？」と思う人も多いかもしれませんが、大学の研究で「高齢者でなくても、電話による声の判別は難しい」という結果が出ています。さらに犯人は、「とにかく急いでいる」と強調することで、被害者に冷静に考える時間を与えないようにします。そうすることで、多くの方が親心と焦りによって、正常な判断ができずに騙されてしまうのです。

家庭で日頃から対策を考えましょう。現役世代の家族が、高齢の両親を守る対策をもっと講じれば、特殊詐欺の被害減少に大きくつながるのではないのでしょうか。



◆子や孫に資産をゆずりたい

資産を譲る場合、ご自身のライフプランにおける他の目的（老後、医療ほか）との優先関係を考える必要があります。早めに考え、準備したり、家族と相談しておくことが大切です。とくに贈与、相続、事業継承などに関しては、さまざまな税法上の措置があります。国税庁ホームページなどで制度を調べ、計画を立て、早めに対応しましょう。

◆判断力の衰えなどに備えたい

計画的な準備が重要です。家族、信頼できる方とあらかじめ話し合い、介護や成年後見など基本的な内容を理解しておくこと、不安が和らぎます。「日常生活自立支援事業」の利用については、社会福祉協議会に自分が希望する支援を受けることができるか相談してみましょう。

